

らくわだより

早春号

三寒四温とはよく言ったもので、ブルッと震える日があるかと思えば、春の訪れを予感するような日差しに心もウキウキ、鼻がムズムズ・・・。

らくわでは恒例の「ランチ会！焼きそば編」を開催しました。「一度も焼きそばを作ったことがない」と言う職員にブーイングが起きる中、他の職員がそれぞれの作り方の違いを披露しながら太麺コーナー、細麺コーナーを作り、食べ比べ「さて、次回は何を焼こうか？」と言いながら楽しいひと時を過ごしました。



事業所見学



2月6日に兵庫県宝塚市の宝塚育成事業所を見学してきました。

福祉用具貸与事業を就労継続A・B一体で行っており、A型で8万円、B型で3万円の高工賃を実現しています。らくわは福祉用具の洗浄・消毒のみですが、育成事業所はウエルネットが運営する福祉用具貸与事業そのものを知的障害者の皆さんで行っています。お客さんの所までベットを運搬し、組立て・動作確認も行っている動画を拝見しびっくりしました。もちろん25年と言う歴史の中で積み上げてきた経験と専門性の高い支援の賜物でしょう。洗浄・消毒のみと決め付けていた作業内容に一つのヒントを頂いたような気がしました。

当日は車椅子の洗浄を拝見し、作業能力の違う二人が一组になり、一つの商品を仕上げるという手法を取り入れていました。工賃は査定基準(評価)を設けそれぞれの金額を確定するそうです。軽度の方が多いと思っていましたら利用者28名の内、療育Aが18名、B2が1名でした。

所長さんの「地域に出かけて仕事をする事は、お客様相手にピリッと緊張感を生み、仕事として当然のことを繰り返す中で、スタッフ全員が鍛えられていきます」との言葉が印象的でした。



=若年性認知症の就労支援=

2月17日に滋賀県精神保健福祉司会が主催する上記テーマの研修会に参加しました。

講師に精神科のDrと訪問看護師を招き、若年性認知症の基礎理解と、患者の声から浮かび上がる現状及び症例を通して就労支援の課題をお話くださいました。

まずは介護保険サービスに若年認知症患者が利用しやすいものがない。障害福祉サービス側も受入れ経験が乏しい。そんな中、Drや訪問看護師がきめ細かに

本人へアプローチをかけ、医療・行政・福祉の関係機関が連携をし、障がい者の就労支援事業所に繋ぎ作業を通して情緒が安定しているという症例の話がありました。

「仕事がしたい！」
「働く事は嬉しくやりのある！！」
という当事者の声から、
今後は障がい者の就労支援事業所の果たす役割が大きくなっていくのではないかと感じた研修でした。

